

# 稲作速報

第1号

発行 JA 金山 営農部

- ・ 今年の金山 稲作
- ・ 育苗準備作業他

## 産地づくりによる農業所得増大 信頼度向上をはかり売れる米づくりへ

今年の冬は暖冬傾向により降雪量が少なく、雪解けが早いと予想されている。(昨年の消雪日は4/10、(下記参照)積雪量が少ないものの、昨年と同様に異常気象による気象変動が懸念されるため、天候に左右されない稲づくりで向かいたい。向こう1ヶ月は気温の高い日が多いと予想されているが、苗づくりは平年通りに進められるように準備を始めていきたい。あわてずに、適期・適正作業で進めよう。

平成30年から「生産数量目標」が「生産の目安」と変更となり、2年目の取組みとなります。全国的に主食用米の作付面積が増加しているものの、作柄が悪かったため米価はほぼ横ばいで推移している一方で、収量が平年並みになると米価の下落が懸念されることから、国では備蓄米の数量を増やし対応することとしている。今後も需給調整に協力してもらい、米価の安定に努めていきたい。依然として稲作を取巻く環境が不透明である中で、一人一人の自覚と組織力を発揮し、更なる米産地確立に向け進めて行きたい。

金山農協の米づくりは、座談会等でも示した様に産地づくりによる所得増大、産地としての信頼度向上をはかり「売れる米」づくり。将来共に、安定的な生産販売体制づくり。特に①契約栽培米による金山ブランド米の確立。②安全安心な環境保全型米の推進。③品質向上と地域水田農業の推進への取組みとなります。尚、一層の契約栽培米の強化に向け、ご協力をお願いします。(裏面)  
今年の稲づくりももうすぐ始まっていく。少し早い便りとなりますが、今年も計画的に進めて行こう。

### 春の作業計画

### ～育苗準備作業(種籾・床土編)のポイント～

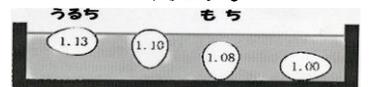
日曜日主体:平坦部

3/17	塩水選		育苗管理
～24	種子消毒		
(日)			
3/21	水つけ開始		
4/7	箱土入れ		
(日)			
4/14	ハウス組立		
(日)			
4/18	芽出し		
4/21	種まき		
(日)			
5/3	肥料散布 耕起 代かき		
5/19	田植え		
(日)			

※ 作業計画は、田植え予定から逆算しての設定とし、山間部でも遅れない様に進めよう。

#### 1、塩水選(3/下～)・健苗づくりの基本で、発芽を揃える為の大切な作業。 ※ 塩水選後は、水でよく洗う。

比重		水100lの塩量	
うるち 1.13	モチ 1.08	うるち 2.1kg	モチ 1.3kg



#### 2、種子消毒・育苗障害でもっとも怖い「籾枯れ細菌病」中心の予防。使用方法は厳守。

##### ◎テクリードCフロアブル 200倍の使い方(種子量60～70kgの場合)

塩水選 → 水洗い → 種子消毒 → (できれば2～3日陰干し) → 水つけ

- ・ 水100lに1本(500cc)をとく。
- ・ 種もみ(60～70kg)を、24時間(一昼夜)つける(薬は1回だけの使用)。

##### ◎エコホーブドライ(微生物農薬)の使い方(減農薬栽培方法)

特別栽培米等の減農薬栽培用として、テクリードC同様の200倍(水200lに100g/1袋、種子12～15kg)で一昼夜浸漬。但し、**催芽前処理**が簡便で、陰干しはしない。又、水つけは**農薬消毒初と一緒につけない**。

※「温湯浸漬法」による種子消毒法もありますが、詳しくは営農部までご相談下さい。

#### 3、浸種(水つけ)・できるだけ長めにつけよう。(高温登熟により種子休眠が深い場合もあります)

- ・ 期間の目安 → 積算水温120～150℃(15～20日間)とする。
- ・ 水の量・交換 → 水量は種籾量の2倍(水深)とし、1週間おきに2回程度水を交換する。特に、種まき近くの水温上昇に注意(日よけ等)し、**水の中で発芽させない**様にする。

※注意点・・・消毒用タンクを使う場合、どうしても上部や側面が温まりやすいので、種籾量はタンクの半分位までとし、**日の当たらない場所**(又は完全しや光)に置く。又、浅い容器(コンテナなど)の場合も、上にコンパネ等をかぶせ、できるだけこまめに水交換する。

#### 4、床土混合・土入れ(4/上～)・一度試してから、できるだけ正確に進めよう。(特に機械の場合)

LP30を使う人	一箱当	20箱分
稚苗肥料	7g	140g
LP30	10g	200g
タチガレン粉剤	6g	120g

育苗一発肥料を使う人	一箱当	20箱分
育苗一発稚苗肥料	60g	1,200g
タチガレン粉剤	6g	120g

稚苗肥料のみを使う人	一箱当	20箱分
稚苗肥料	15g	300g
タチガレン粉剤	6g	120g
※追肥は液肥で行う		

- ・ 20箱分の床土は約3斗です。
- ・ くん炭やピートモスを混合する場合は、土量の10～20%とする。(多いと播種時の水の浸透が悪い)
- ・ **肥料入り床土を使う人**は、は種時または緑化時(ハウス出し後)にタチガレン液剤(500倍)を散布(500cc/箱)する。
- ・ 覆土(上土)は、20箱分で約1斗必要です。

※注意点・・・前年に肥料等を混合して残った床土は**使わない**。又、LPや一発肥料の開封したものも、肥料障害が出やすいので使用しない。尚、くん炭を使う場合は、炭が多いとPHが上がるので、1度ふるいをかけて使用。

### 融雪情報

今年は積雪量が少なく、雪解けもはやい状況にある。**3/6現在の平坦部積雪量は64cm**(平年85cm、昨年133cm、H29.86cm)となっており、今後の消雪予想日は**3/29頃**(平年4/5、昨年4/10、H29.4/5)の見込みです。天候を見ながら消雪対策(土・くん炭・転炉石@630を5～10kg/1a散布)をはじめ、ハウスの補修や準備も早目に進めよう。

# 今年度の金山稲作方向

「信頼される産地」としての「契約栽培米」の強化  
 変化の大きい米販売情勢の中で、金山農協の米づくりは、地域特性を生かし、需要(契約先)に応える信頼される米づくりを目指す。

- 重点課題**
- ・金山ブランド米の推進：GAP認証等、売れる米づくりの推進
  - ・環境保全型米の推進：栽培体系の確立と契約栽培米の強化等
  - ・地域稲作の推進：備蓄・加工・飼料米の拡大と作業受託体制

- ① 安定的な契約栽培米の強化推進 — 契約米比率98%へ —  
 「ミストトップ米」：減農薬栽培を基本とするはえぬき、あきたこまち体制。  
 「酒米」：県外向け(GAP認証等)需要を含めたブランド米産地・里づくり。  
 「モチ米」：越後製菓、中央軒煎餅等向け、ヒメノモチ栽培団地の供給体制。  
 「つや姫・雪若丸」：ブランド米として確立するための良食味米生産の推進。
- ② 環境保全型稲作の推進  
 水田環境に配慮と活用する、特別栽培米・省農薬栽培・ブランド栽培の3栽培体系を中心に、循環型栽培・有機低コスト栽培の取組み。
- ③ 品質・食味向上への米づくり(全品種一等米比率95%目標) —  
 土づくり・基本技術管理の徹底と、葉色診断計・食味計の活用並びにカメムシ対策等による、品質・食味向上を前提とした一等米づくり。
- ④ 安全・安心生産米の体制づくり  
 トレーサビリティとしての「栽培管理記録表」記帳運動と、安全安心米対策としての残留農薬・DNA・放射性物質等の調査・啓蒙。
- ⑤ 地域稲作の推進  
 備蓄用米・加工用米・飼料用米への取組み拡大(下記参照)そして、稲作作業受委託体制の推進。

## 平成31年度生産販売計画

品種	作付面積 (ha)	出荷計画量 (俵)	契約数量 (俵)	契約先	比率 (%)
あきたこまち	55	2,500	2,500	丸紅・ミニストップ・神明他	4
はえぬき	335	20,500	20,500	丸紅・ミニストップ・神明他	32
つや姫	53	5,000	5,000	認証制度(特別栽培米)	8
雪若丸	89	7,000	7,000	生産組織認証制度(生産工程管理)	11
出羽燦々	110	10,000	10,000	県酒造組合・出羽桜他 (特別栽培米・ブランド米・一般米)	15
美山錦他	40	3,000	3,000		5
ヒメノモチ	65	3,500	3,500	越後製菓、中央軒煎餅他	5
ひとめぼれ	5	450			0.7
コシヒカリ他	5	400			0.6
備蓄米	135	12,000	12,000		18
加工米	5	500	500		0.8
輸出用米	3	150	150		0.2
計	900	65,000	64,150	(98.7%)	100

## ～ 新たな米・こだわり米づくり案内 ～

### 1. 「環境保全型(こだわり米)」づくり案内

今年も、「特別栽培米」の取組み体制がほぼ決まりました。生産者は5名での取組みとなり、おもには『出羽桜酒造』との契約になっております。

- ・「特別栽培出羽燦々」 約10ha

### 2. 「つや姫」特別栽培米づくり

平成31年度「山形つや姫ブランド化戦略推進本部」による、生産者認定制度と栽培適地マップ等での配分方式の栽培米づくり。特別栽培米認証とし、栽培・出荷・品質基準内での対応となります。

- ・今年度は生産者55名で54ha栽培の計画。
- ・栽培基準は「減農薬50%+減化学肥料50%以内」とし、肥料・農薬は限定品目となります。
- ・3/5(火)「つや姫・雪若丸」生産者認定証交付式
- ・3/13(水)「つや姫栽培研修会」開催

### 3. 新品種「雪若丸」のデビューと酒米「雪女神」づくり

山形県の新たな戦略品種として期待される新品種「雪若丸」を昨年より一般作付けを開始しました。また、「雪女神」は、今年も5名の生産者で栽培。

#### ◎「雪若丸」

はえぬきの孫系統で、食味や白さは、つや姫並みで暑さにも強い。短稈・大粒・良質・良食味で、今年金山町では89町歩作付け予定です。

「雪若丸」の作付けを希望される方は、毎年夏に生産者の募集をしますので、その際に必ず申込みをしてください。

#### ◎「雪女神」

吟醸クラスの出羽燦々、純米クラスの出羽の里、そして大吟醸クラスを担うのが「雪女神」とされ、山形県内34の酒蔵で醸造をしております。

需要に合わせた契約栽培体制のため、今後の展開については分かり次第ご連絡していきます。

## ＝ 春 農 情 報 ＝

### 1. 一気になる天気予報

◎東北地方「3カ月予報」(2/25、仙台管区气象台発表)

- ・3月 東北日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない見込みです。
- ・4月 東北日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・5月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

### 2. 米需給調整(転作)情報

今年の需給調整(転作)等の方針・進め方は、座談会で示した通りとなります(座談会資料参照)。今年から「生産数量目標」が「生産の目安」へ変更となり、山形県より「米需要量」5,008t(前年比+78t)=面積換算880ha(前年比+15ha)=町転作目標面積575ha(前年比△15ha)=町転作率39.5%(前年比△1.1%)となっています。

～需給調整への参加と売れる米づくりの同時進行で!

皆様のご協力をお願いします。～

### 3. 「備蓄用米・加工用米・飼料用米」への取組み案内

地区座談会でお知らせしました、米需給調整作物(水田活用米)としての「備蓄用米」・「加工用米」・「飼料用米」・「輸出用米」づくりは以下の概要となります。現在希望申込みの取りまとめ中です。

- 「備蓄用米」: 品種「はえぬき・あきたこまち」、契約数量 720t(約 12,000 俵)
- 「加工用米」(モチ含む): 品種「はえぬき」ほか、契約数量 30t(約 500 俵)
- 「輸出用米」: 品種「はえぬき・あきたこまち」、契約数量 10t(約 170 俵)
- 「飼料用米」: 品種「夢あおば・ふくひびき」他、契約予定面積 50ha  
 尚、いずれも出荷販売契約枠内での取扱いとなりますので、契約数量・面積を超える場合は後日調整となります。

### 4. 一山形県「金山町」産出羽燦々・美山錦使用酒の消費拡大

今年も、山形県酒造組合と県酒米連絡協議会の推進事業として、「乾杯は県産酒で!」並びに「消費拡大愛飲運動」が実施されています。一層の酒米需要の拡大と酒米振興にご協力をお願いします。

蔵元は「出羽桜酒造」「立山酒造」「米鶴酒造」「東北銘醸」「古澤酒造」他。くわしくはJA金山生活課(52-2012)で取り扱っています。

また、平成30年度山形県優良酒米コンテストにおいて、松澤信矢さんが「全農山形賞」を受賞しました。